

室内で発症した高齢者の偶発性 高度低体温症の1例

たけの あゆむ きじま つね たか なが み た いち
竹野 歩 木島 庸貴 永見 太一
こいけ たか し ほつ た ゆき え た なか たか あき
小池 尚史 堀田 優希江 田中 孝明
おきもと たみ お こ たに のぶ ひろ に しな まさ よし
沖本 民生 小谷 暢啓 仁科 雅良

キーワード：偶発性低体温症, after drop, rewarming shock

要 旨

偶発性低体温症は寒冷暴露により深部体温が低下した状態である。高齢者においては室内での発症が多く死亡率も高い。症例は90歳の女性で、室内で倒れており深部体温は膀胱温24.9℃と高度低体温症に陥っていた。加温輸液と温風ブランケットによる復温、全身管理により救命することができた。循環の保たれた高度低体温症の治療は、加温輸液と体表加温による治療を行い、全身状態や治療の反応性に応じてさらに侵襲の高い加温方法を試みるのがよいと考えられる。室内発症の場合は突然何らかの原因で倒れ寒冷暴露により低体温に陥る症例のほか、緩徐に低体温が進行する症例もある。冬季に高齢者を診察する場合、低体温症も考慮することで早期に発見することができると考えられる。

はじめに

偶発性低体温症は寒冷暴露により深部体温が35℃以下に低下した状態である。意識障害、肝・腎機能障害、凝固異常、横紋筋融解、致死性不整脈など全身の様々な症状を引き起こすことがあり^{1,2)}、復温、全身管理を要する病態である。高齢者は体温調節能が低下しているため低体温になりやすく室内での発症も多い³⁾。今回われわれは室内で発

症した高度低体温症の高齢者の1例を経験し、加温輸液と温風ブランケットによる復温、全身管理により救命することができたので報告する。

症 例

患者：90歳，女性

主訴：意識障害

既往歴：高血圧症，骨粗鬆症，認知症。

生活歴：飲酒，喫煙なし。

生活状況：長男夫婦と同居。ADL (activities of daily living) が低下してきていたが身の回りのことは自分で行い，家族とのコミュニケーション

Ayumu TAKENO et al.

島根大学医学部附属病院救命救急センター

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1